

パートナーシップおかや

NO. 5

岡谷市男女共同参画推進市民の会

忘れられない言葉

岡谷市男女共同参画推進市民の会副会長 小池喜代

当時ジェンダーエンパワーメント指数が世界第1位だったノルウェーで「この国では男女平等の教育をどのようにされているか？」と尋ねたところ「学校では特にやっていない。家庭で父母の姿を見ていれば、子どもは自然に学ぶ」という答えが返り「なるほど」と頷きました。学ぶとは真似ることだ。教えなくても子どもは自ら学ぶことが多い。大人の責任は重大だと再認識しました。

そのノルウェーも曾ては男性優位の国でした。イブセンの「人形の家」のモデルは19世紀初頭の女性活動家カミラ・コレットさんのお姉さんだそうです。コレットさんは、お姉さんの生き方をみて女性の自立のために奮起したのです。

1981年には初の女性首相が誕生し、4度内閣を組閣しています。

また、フィンランドは他の北欧諸国と同様に社会福祉が進んでいると言われていて、そのために共働きは当たり前だそうです。

フィンランドを訪れた時、子どものいない女性に「教育費が大学まで無料なら子どものいない家庭は不利益ではないだろうか」と聞いてみたところ「そうは思わない、私たちの老後は保障されているのだから」と言われました。「消費税25%だがもっと上がってもいい」との声に驚きました。なぜかと問うと「税金が高いので、国民の政治に対する関心が高く、クリーンな政治が行われている」とのことです。日本では、5%の消費税をあげようとしても大反対の声が多数です。

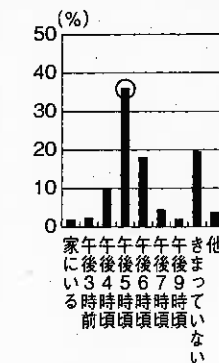
現在フィンランドでは、大統領が女性、首相も女性、教育大臣も若い女性だそうです。

第2次世界大戦でソ連に敗戦し、その戦後復興を男性も女性も共に働くことで為し遂げたフィンランドに学ぶところが大きいと感じます。

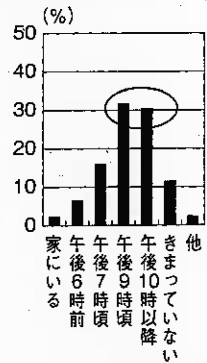
今、日本では若い人たちが将来に夢を抱けず、情熱を失い自暴自棄になったり、消沈したりしている人が増えているのではないのでしょうか。「今の人たちは、お得感がなければ動かない」という言葉は気になります。そうした社会のあり方をみんなで厳しく見つめ直す必要があるように思います。人間は一人では生きられない、現代社会は家族だけでも苦しくなる。共に生きる社会をつくらなければと痛感します。国の枠も越えて・

男女の帰宅時間の比較

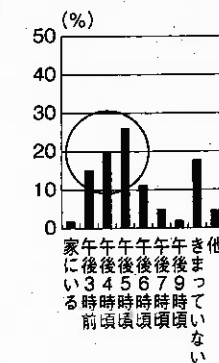
スウェーデン 男性



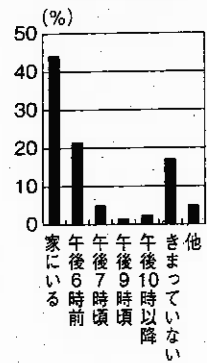
日本 男性



スウェーデン 女性



日本 女性



特集

女性の働き方を見つめて

東日本大震災は多くの命を奪い、更に被災している人たちも失望と避難生活のストレスから命を落としていると報道されています。そんな中で復興に向けて果敢に取り組む人たちの姿が、世界の人々に自らの生き方を見直す機会を与えています。

人間は一人では生きられない、しかし、寄りかかって生きようとすれば社会は成り立たない。みんなが一人の人間として自立して生きる、真の「男女共同参画社会」が今こそ求められているように思います。

昭和20年、戦による災禍の中から立ち上がり高度経済成長を為し遂げた日本人に世界の評価は大変高かった。その中で男性は、女性はどんな生き方モデルをつくってきたのでしょうか。市民の声を聞いてみました。

40代女性

20代で職場結婚。結婚が決まって寿退職。結婚後しばらくして年収130万円にならない範囲におさえて同じ会社でパート勤務。夫の転勤で退職。出産して現在専業主婦。家を建てたが夫婦共に趣味もないので堅実に生活している。

40代女性

夫婦共に公務員だったが第1子の出産を機に退職。第2子が小学校に入学したのでパート勤務についた。子どもに手が掛からなくなったのでフルタイムの仕事に就きたいが、正規の再就職は難しい。子どもの進学など考えると少し不安になる。

50代女性

何とか経済的にも自立したいと考えいろいろな仕事を経験。岡谷の特徴を活かして起業。専業主婦でも収入を得たい人たちに声をかけて進めているが専業主婦の場合は扶養控除対象の範囲で働くことを夫にも望まれていて意欲をもって働こうとしないように思う。

50代男性

父親が亡くなり母親と二人暮らし。母親が心配な状態になり会社を退職した。定年前であり自分の年金はまだ支給されない。母親も父親と共に農業だったので年金額は少ない。農地はたくさんあるが母親を家において仕事に出かけるのは心配で農業収入には期待できず困っている。妻がいてくれたらと思うこともある。

60代女性

夫と共に介護施設を運営。最近高齢の男性の利用も増えてきた。女性に比べ男性の場合家事や自分の身の回りのことが出来なくて女性より支援が必要になっている。自立出来ない高齢者が増えれば介護保険料は益々多く必要になる。男性の生活の自立は社会福祉の立場からも重要だ。支援してくれる女性も103万円を越えない働き方を望む

60代女性

若い時は会社勤務していたが結婚を機に退職。一時金として年金も受取りその後は夫の収入で生活している。現在経済的に困ることはないが、口に出さないがいつも養われているという遠慮はある。少額だがパート収入は趣味に使うのに遠慮もなくうれしい。しかし、年金のことを考えると不安もある

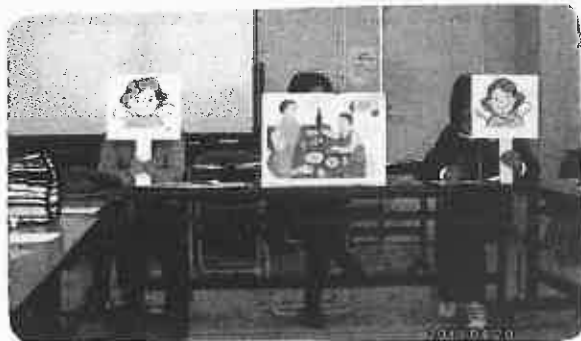
皆さんの声から考えさせられたこと

平成11年に「男女共同参画社会基本法」が制定されたのは、それまでになかなか改善されなかった男女差別の解消や人権尊重の気風づくりと少子高齢社会を迎えて将来の社会福祉が危惧されたためだったと思います。その中で男性には特に「生活の自立」を、女性には「精神的自立」と「経済的自立」が必須であると言われていました。しかし、今質実共に一人一人が尊重され、それぞれの能力を生かして住みよい社会をつくるために、家族のとらえ方や扶養制度が女性の生き方を拘束しているような気がします。因に扶養手当・扶養控除制度は日本特有の制度であるようです（広報部）

市民の会では、“あいとぴあ”グループ企画協働事業に応募し、5万円の補助金をいただき、市民の会の有志により紙芝居を制作しました。

家庭の生活と仕事との両立「ワーク・ライフ・バランス」について、従来の考え方を見返し若い人たちに送りたいメッセージが込められています。

案文 北原由紀さん
絵 宮下雅絵さん



4月の市民の会定例会で紹介

紙芝居の構成

二人の天使が、新婚後1年経過した夫婦の家庭や職場の社員の会話をとらえて考えるという斬新な構成です。

<その1> 結婚1年後の二組の夫婦の姿

A 乳児の世話をしている妻に「オーイ、お茶」と呼ぶ夫
毎日仕事で疲れているという夫、日曜日もなく家事や地域の用事で24時間365日の営業だという妻

——これが典型的な幸せな家族か？

B 妻が残業で9時半に帰ったが夕飯も食べずにいる夫、あきれて家を出る妻
一心発起、妻のためにオムライスをつくって待つ夫、喜んでくれる妻に悦びを感じる夫

——男性は料理が苦手とは言えないのでは？

<その2> ある会社の風景

A 結婚したら妻には仕事を辞めて欲しいと思うが、相手は仕事を続けたいと願っているので尊重したいと言う結婚前の男性

結婚したら専業主婦になりたいと言う職場の独身女性

家事もやる男性と結婚したから心配なく仕事ができているという既婚女性

女性にコーヒーの入れ方を教えてもらおうと意気込む男性

——女性も男性も自立することが相手を尊重することでは？

B 妻は専業主婦だが弁当は自分でつくると言う男性社員

専業主婦なのに何をしていると問う中年の男性社員

弁当づくりも楽しいという若い社員

料理はやらないが自分は洗たく担当だという別の若い社員

家事など男のやることかと嘯く中年社員

1年後、熟年離婚し家事一切をやるはめになった中年社員。

——男のプライドが幸せを奪ってしまったのか？



昨年度の朗読劇発表の様子

小学校から家庭科で調理も初歩的な家事について学んでいる若い人たち。

今の若い人たちは男性も家事をやっているむしろ女性の方が強いという声が聞かれます

このまま女性がキャリアを積んで男性と同等に活躍できる時代が本当に来るのだろうか

まだまだ、壁が厚いのではないのでしょうか。これまでの慣習に囚われず「自分らしく」

生きるために強い意思をもちたいものです。この紙芝居は「朗読劇」として発表されます

6月23日(木)～29日(水)は

男女共同参画週間

日本では、平成11年6月23日に「男女共同参画社会基本法」が施行されたのを記念し、毎年6月23日から29日を「男女共同参画週間」と定めています。

今年のキャッチフレーズは(全国公募最優秀作品)

“チャンスをつかち、未来を拓こう”

市民の会では、この週間に合わせて市民の皆様にも男女共同参画についての理解を深めていただくために展示を致します。

多くの皆様にお立ち寄り頂きたいと願っています

期
間
場

6月27日(月)から7月1日(金)まで
イルプラザカルチャーセンター3階催事場

内
容

- ◇ 「市民の会」の活動紹介 22年度の活動の様子を写真で紹介
 - おかや男女共同参画フォーラム・
22年4月、岡谷市では「男女共同参画おかやプランIV」施行事例発表と関係団体の意見交換をしました。
 - パートナーシップ講座
1回目はフォーラムを市と共催。次に「介護と仕事・家事育児と仕事」「起業と男女共同参画」のテーマで3回開催しました
 - ポスターコンクールの実施
「男女共同参画社会づくり」に関するポスターを小中学生から募集し、表彰式を行い、入賞作品を紹介しました。
 - 市長さんとの懇談会、茅野市との懇談会、地域懇談会の実施
今井区、間下区で地域の皆さんによる懇談会が行われました。
 - 「おかや市民の集い」の実施
小学校5年生の「あなたらしく、わたしらしく」の冊子についての感想文の発表やポスター展示等を行いました。
- ◇ 男女共同参画啓発のための展示
 - 県下の市町村議員中の女性割合
今年の統一地方選挙後の状況を色分けして地図に示しました。
 - アンケート調査のまとめ
保育園の保護者会長やPTA会長になぜ女性がいらないか、役員の皆さんに実施したアンケート結果をグラフにしました。
 - 男女共同を参画啓発紙芝居の展示
グループ企画協働事業への応募作品を紹介します。



展示準備をする市民の会会員

<お知らせ>

☆ 例年、この期間に開催されていた内閣府主催「男女共同参画社会づくり全国会議」は、東北関東大震災のために中止となりました。

☆ 日本女性会議は、島根県松江市において10月14日(金)から16日(日)まで開催されます。遠距離なので市でバスの用意はできませんので最寄りまで参加してください。申し込み受付は、7月1日(金)～9月13日(火)。詳しくは、岡谷市企画課(伊藤さん)にお問い合わせください。